

つるのおんがえし

「ご縁」をいただいたあなたへお届けする、「大きな想い」の「小さなお手紙」



2018年



あけましておめでとうございます

2018年となりました。こんにちは、感謝・創庫の芦川永光です。新しい年の始まりに際して、例年通りの年賀状になりますと、お送りすることが出来ない方がおります関係で、今年は他の月と変わらないお手紙として綴らせていただきます。皆様への変わらぬ感謝と想いを込めました、つるのおんがえしをご一読いただけましたら幸いです。

**一物全体
|| ありのままの姿で
分割されていない
状態のこと**

どうやって抜きん出ようと学び続けた日々。安心を得るために本を読みあさった日々。新しい知識を身につけた時のゾクゾク感と、それを先にやっている人が見つかってしまった時の

ガツクリ感。私の40歳までの人生は、広告業に携わる一人として勝ち方を求める日々でした。「私のお客様を勝たせたい」と、ただひたすらに考えていたのです。

勝ち負けでない

そんな中で今、気づいたことがあります。私が地域一番店の出来るまでをお手伝いすることで、負けてしまうお店が一方で生み出されていたことに。どこかで分かっていたのですが、あえて考えないようにしていたのだと思います。でも、それでは良くな

今年もよろしく
お願ひします!!





今年はいぬ年だワン！



い。私はこんな状況を変えたい。お店ごとではなく、地域全体を引き上げる広告を再開発しなくてはならない。目を背けず、しっかりと向き合わなければと考えるようになりました。

パンダにおける笹

最近お披露目になった上野動物園のパンダがとても人気だそうですね。

パンダが熊の仲間であり、生物学的に見ても本来肉食の生き物で

あることは、動物好きの方ならばご存知かと思えます。

では何故、パンダは肉を食べずに笹を食べているのか。ライオン、チーター、トラなど、その他の肉食動物を飼ってみれば、パンダに比べてはるかに足の速い生き物ばかりです。つまり、パンダは長い歴史のなかで、獲物を追いかけて肉食を続けるのではなく、笹を食べる生き抜く道を選んだと言えます。

私たちが選べる道

ならば私たち人間にも、この先の人生、未来を選択することは大いに出来るはずで。私の直感でしょうか。私ですが、2018年は大移動の元年になると思います。郷里を愛する思いが強く、地元を離れたい多くの日本人が、いよいよ世界に打って出る元年にな

ると読んでいます。それは物理的なことだけでなく、精神的にも、です。

テレビの「日本礼賛」番組が増えました

「テレビは信用ならないよ〜」なんて言いがた、こんな辺鄙なところに住んでいる日本人がいる、日本の商品が世界でこんな風に使われている、売れている、すげー！と日本語吹替の言葉だけを聞いて、信じて疑わない私たち。

人はこんなものじゃない、と海外の方々は知っています。事実、日本に訪れる観光客は年々増え続け、昨年京都には500万人を超える外国人観光客がやってきました。

手先が器用で、高い技術も持っているのです。時代は変わり私たちも変わる時代遅れというのは、自分のやり続けたことが廃れることではないと私は思います。記録媒体としてビデオがCD、DVDになり、今や実体のないデータでやり取りをされる音楽、映像のあり方を見れば、それらがあ

時代は変わり私たちも変わる

る時代の役目を無事に終えたことがわかりま



変わる、変わらない、ここには自然の理しかありません。海を綺麗にしたい、ゴミを減らしたいと願う気持ちは、恐らく人間みんなが共通で持っています。

2018年、動き出しました

貧困を無くす、飢餓を撲滅するといった上位の願いもあるでしょう。これらがもし実現可能ならば、個人的な

エゴから少しずつ離れてでも未来を創っていきたく、と多くの人が感じると思っています。世界が身近に感じられるように 2018年、私たちが日本人は、動き始めます。これを読まれている皆さんはすでに実感され、「そんなこと分かっているわい！」と笑い飛ばされることでしょう。

世界が身近に感じられるように

活躍の機会を既に世界に移されている皆さんにとっては、新しい拠点を日本にするか海外にするか、と地元で引越しをするような感覚になっていると思います。

そんな番組を否定している訳ではありません。日本のものづくりは、やっぱりすごいし、世界中に頑張っている日本人がいることを誇りに思うのも事実。

日本の現実

ですが悲しいかな、2000年代を前に完成している国、日本の現状は古い発明、古いシステムが形を変えずに残っている時代遅れの国。

これまで私たちが発展途上国と認識していた国々は、今や最先端



の発明やシステムによって、新社会を形成する新興国と呼ばれています。そんな彼らの日本に対するリアルな評価が「古い」なのです。

他国からの日本の評価

タイに30年住んでいる日本人の友人が言いました。「日本は時代遅れになったのではない。他の国が成長して行く中、足踏みをしていただけだ」と。

確かに日本のシステムは古くなってきたが、本気を出した日本

に感じていた海外進出がライトに考えられる視点、視座をほとんどの日本人が持てることです。

広く高い視点であなたのお店をサポートしたい

あなたのお店をよくしたいと思ったら、地域全体を見ます。地域を良くしたいので、日本全体を見ます。日本を良くするために、世界を歩いて良く見ます。みんなを良く出来るように考え、あなたが目指す所へ最大限サポートしていきたいと思っています。

面白い一年に

独立から間も無く10年。多くのご縁をいただいたことで、ようやくここまで実現出来る



ようになりました。今生かけてやりたいことも見つかりました。これを結実させるために、良心に従い生きることを誓うとともに、2018年中は皆様の劇的進化、メタモルフォーゼをお手伝い出来るように、優しく頼れる先導師になります。面白い一年を一緒に歩んでまいりましょう！

心に響く感動の格言

感じない歌

っていうのは

一番イヤだけどさ、

感じさせようと

する歌はもつと

イヤなんだよね



Words by 玉置浩二

今回は、成年生まれの芸能人の名言を紹介します。60歳になられるミュージシャン、玉置浩二さんです。

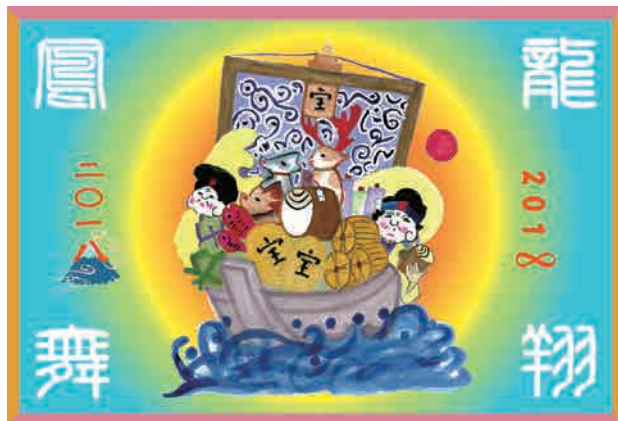
広告、プロモーションの本質を追求し続ける中で、最近は「消費させようとする」広告の違和感から離れて仕事をするようになりました。おかげさまで、仕向けたり、強要したり、危機感を煽ったりと、人の心に寄り添っていない広告は、デザインをすることも受け取ることもだいぶ減りました。行動が変わったことで、目の前で起こる現象も変化したのでしょうか。

広告の「広く告げる」は範囲や面積ではなく、自分の脚を使って届けられない距離へ告げる手段と考えると、究極の広告はラブレターだと私は思っています。

故に広告はこれからも変わらず「人」に本質があり、「心」「想い」を伝えるものなんです。人のお顔が見える、誠意が伝わる、相手に「感じてもらえる」広告を、2018年も届け続けたい！それが私たちの永久不変の願いです。

2018年の開運カード

今年も、お送りいたします!!



今年の開運カードです!!

新しい一年、あなたにたくさんの幸運に満たされるよう、開運デザイナーに特別にお願いし、「2018年開運カード」を作成しましたので、お送りさせていただきます。

中心にあしらったのは、今年のラッキーカラーであるオレンジに輝く陽光を背に受けて、新たな航海へ向かう宝船。帆に描かれた文字には、さまざまな縁起の良い意味がこめられています。おこす・ひらく・大きくなる「発」の意味もある「8」の数字は、末広がりの「八」の富士、8の字を無限大(∞)に見立て、ヒト・モノ・コトが広がるようお願いをこめています。

ラッキーカラーのゴールド、ピンクで囲い、「龍のごとく力強く駆け上がり、鳳凰のように華麗に舞う」という意味の「龍翔鳳舞」の漢字四文字。あなたの2018年が発展、飛躍のある一年であることを表しています。

風水では、運気は、玄関やドアから入ってくると言われていますので、裏面に、今年の願いをひとつ書き出し、玄関や部屋のドアの目につくところに張り出して、それを叶えるたくさんの運気を引き寄せてください。

今年一年、たくさんの善いことがありますよう、心より祈っています。

編集後記

愛する息子へ



2017年は深く掘り下げた一年でした。屋号にある「感動」を定義したり、「楽しい」の概念化までしました。これには、子育ての責任感も大きく影響しました。子供の成長はあつという間。例えようのな

い速さで、ひと月前のことも忘れてしまっています。産まれた頃の写真を見て「こんな顔していたんだなあ」と随分前に感じるほどです。口の中に手を入れると下の歯が生えてきたのが分かります。年が明けたら歩き出し、夏くらいには達者に話しているのかな。

今のところ順調に育って、聞き分けのいい我が息子へ。

父は力を蓄える一年になるので、諸々の試練は出来たら来年以降にお願い出来ますでしょうか？父として、さらに深掘りするからね。

